

On-Air 3000 ユーザーレポート

株式会社エフエム福島 様

On-Air 3000



ふくしま FM On-Air 3000 導入記



株式会社エフエム福島
放送部 中垣 貴裕

開局10周年で移転

ふくしまFMは1995年10月1日に福島市で開局し、今年で10周年。これを期に、本社スタジオを50km離れた郡山市に自社ビルを建設・移設を行いました。開局当初より「ワンマンスタイル放送」「フルデジタル設備」を標榜していた当社では、新局舎にもそれらをパワーアップした設備設計を行いました。

ワンマンスタジオの功罪

開局当初、日本にはワンマンスタイルで生放送を行なう放送局がなく、運営方法も試行錯誤の連続でした。一人で運行を管理しながら、楽しい放送を行うことは、局内から見てると矛盾をはらんでいるものでした。運行や機械操作の複雑さがパーソナリティのアイデンティティを削ぎ、ひいては番組クオリティの低下を予想できたからです。新局舎では機械操作の煩わしさを楽しさに変え、放送事故を防ぎつつも作り手も楽しめるスタジオシステムの構築を考えるようになりました。

スタジオ構築のコンセプト&キーワード

1. スタジオは仕事場であるが苦痛場であってはならない
2. スタジオはパーソナリティの居住空間

3. パーソナリティが部屋でくつろぎながら友だち(=リスナー)と語らうイメージ
4. スタジオ内を明るく楽しい雰囲気
5. 機械操作はできるだけ少なく
6. 長時間放送でも疲れな

諸外国のようなフレキシブルなスタジオ形態に刺激されたことはもちろんですが、機械に囲まれたスタジオではない「心が休まる優しい雰囲気」となるスタジオ設計を心がけました。

On-Air 3000との出会い「設置形態が自由になる音声卓」

まずはパーソナリティの「マシン」ではなく「パートナー」となる音声卓探しから始まりました。難しい人間工学ではなく「こんな形、操作感の音声卓があれば何時間でも生放送できる!」といった現場のわがままな声を聞きながらの「旅」でした。

既製品の価格で、レイアウトフリーの音声卓と巡り合うには時間はかかりませんでした。

On-Air 3000の魅力はなんと言ってもレイアウトフリーであり、私達の培ってきたワンマンスタイルをもっと楽しくするパートナーとして、人間の使い方にマシンが合わせてくれる理想的なパートナーであり、すぐに仲間入りを果たしました。スイッチ類が少ないためにパーソナリティは複雑な操作を覚える必要がないにも関わらず、エンジニアが音創りをする上で様々な詳

細設定も行なうことができる「優しい顔をしたできるヤツ」であることは、私達の想像を越えた嬉しい誤算でした。

さらにコアフレームをマスター室に入れることでスタジオ内の「スタジオ感」を減らすことができスペースの有効利用も兼ねられ、ここまでフレキシブルな音声卓があったのか!と驚きの連続と、巡りあった幸せを噛み締めたものです。

風のように空気のように

使い始めて約1ヶ月。オーダーメイドの机と一体化したOn-Air 3000は、自然にパーソナリティの番組作りに協力しています。エンジニアがあっ気にとられる程、まるで空気のように簡単に使えるパートナーとして活躍しています。

立ったまま生ワイドをするパーソナリティ、機械操作が苦手な女性パーソナリティがポンポン動かす姿…きっと想像していた以上の、新しい時代の新しい放送スタイルが、福島から生まれてくる予感を感じさせてくれます。

最後に、コンセプトに賛同してご協力くださった、日東紡音響エンジニアリングの後藤様、キューベルズシンの森様、畑様、そしてスチューダー・ジャパン様に厚く感謝致します。